

家庭学習応援だより 夏休み直前号

1学期が終わろうとしています。変化の多い1学期だったのではないのでしょうか。学校で身に付けさせたい学力の一つに、「変化の激しい時代を生き抜く能力」があります。どの子も、慣れ親しんだ環境から新しい環境に変わり、これまでになかった経験をしたことだと思います。よい経験ばかりではなかったかもしれませんが、多くの人と出会い、新しいものの見方や考え方に触れ、大きく変わっていくことでしょう。そして、2学期にはまた新しい目標に向かって挑戦していく。そんな前向きな姿勢で新学期を切れるよう、保護者の皆様の手で背中をそっと押しあげたいものです。

あなたはどのタイプ？



ここでは、以前好評だった「親の残念な関わり方」を載せたいと思います。というのも、子供への関わり方が、子供の成長に大きく関係があると言われていたからです。また、親御さんの家庭でのがんばりや子供の努力を成果に変えるためにも「残念なポイント」をなくすことが大切です。夏休みが近くなった今だからこそ、もう一度チェックしてみて、親子ともに心穏やかに過ごせる夏休みにしてほしいと思います。

何でも気にして先回り せっかちタイプ

- よく言えば、子供のことをしっかり見ている、愛情あふれるあなた。どんなときも、我が子のことをいちばんに気にしています。ただ、その細やかさが、時としておせっかいや厳しさに傾いてしまい、子供に息苦しさを感じさせてしまっているかもしれません。
- あなたの口ぐせ…「どう？もうできた？まだ？」、「ちゃんとしなさい」、「ほら、また間違っている!」、「ママがやっておいたからね!」

自由にさせすぎ 子供任せタイプ

- よく言えば、子供の意思を大切に、のびのびと子育てをする、包容力豊かなあなた。子供から好かれていることでしょう。ただ、その優しさが、甘さとして裏目に出ることも。子供を信用しすぎて、大事なところを見落としている可能性があります。
- こんなことはありませんか？…子供の言葉を鵜呑みにしている、子供のノートを見たことがない、勉強ばかりさせたくないと思っている

自分の都合が最優先 自己中心タイプ

- 良くも悪くも、自分の中で好き嫌いやルールがはっきりしていて、人に流されないタイプのあなた。子供からも頼りにされているでしょう。ただ、自分の都合で物事を判断してしまうため、子供に課す学習の内容がアンバランスになる危険性も持っています。
- こんなことはありませんか？…親の都合で勉強時間が変わる、自分はアドリブに強いと思っている、興味のないことはトコトン避ける

理想の姿を追いかける 欲張りタイプ

- 「子供にこうなってほしい」、「こんな教育がしたい」という理想をもち、それに向かって努力を惜しまない、頑張り屋なあなた。子供にも的確なアドバイスができるでしょう。一方で、次々に新しいことを試して、中途半端になっていることはないですか。
- あなたの口ぐせ…「これからはこういう能力が大事なのだ!」、「もっとがんばりなさい」、「もっとできるはずよ!」、「あなたのためなのよ!」

いかがでしたか。あなたはどのタイプだと思いますか？どのタイプも度が過ぎると、今の時代なら「毒親」、「親ガチャ失敗」、「教育虐待」などと言われかねませんね。良好な家庭環境や親子関係は、子供が学習に向かう土台となるものです。逆に、家庭環境や親子の関係が不安定だと、子供の気持ちはなかなか学習には向きません。親子ともに程よい距離感を心がけてみてはどうでしょう。

過保護よりも過干渉のほうがキケンと言われる訳



子供への接し方は、子供の発達段階に応じて変化していくべきものです。よく、子育てのゴールは「子供の自立」と言われます。そして、子育ては子供が自立して人生を切り拓いていくことができるよう、サポートをしていくものです。「ノーマスの人生」などありえませんし、いつまでも親が甲斐甲斐しく世話を焼いては、子供の自立を促すことはできません。愛情のつもりが過干渉になっていないか自分を客観的に振り返る意識も大切です。

では、こちらの□にチェックしてみてください。重度の1つでも当てはまるものがあれば、ご家庭の親子関係は「共依存」状態です。中等度は3つ以上だと重度への黄色信号です。「共依存」の一手手前です。「共依存」が怖いのは本人たちに自覚がないことです。

共依存【重度】

共依存【中等度】



我が子は、1人では何もできないと思っている。

子供がやることの何でも先回りしてしまう。

我が子のすべてを把握していないと気が済まない。

学校の支度や宿題などの課題を子供の代わりにやってしまう。

我が子に自分の人生のすべてをかけている。

我が子が失敗してしまわないか不安で仕方ない。

【子供に起こりうる弊害】

1. 自立できなくなる
2. 主体性がなくなる
3. 失敗に弱くなり、挫折しやすくなる
4. 成長する機会が奪われる

小学校では、宿題や課題を通してスケジュールリングや計画の立て方、計画通りに進める力などを養っていきます。ところが、「ママに貸してごらん。」と子離れできない親が子どもの代わりに計画を立て、効率の良いやり方を考えてしまっただけでは、子供はいつまでたっても**計画力**や**実行力**が身につきません。子供の代わりに計画を立てるのではなく、やり方や方法のヒントを与えるというのはどうでしょう。

我が子のスケジュールや交友関係などを全部把握している。

我が子が誰と遊ぶかを私(親)が選んでしまう。

(母親の場合)娘を自分の分身のように思っている。

我が子に1日の出来事を細かく聞き出してしまう。

子供に頼まれてもいないことを率先してやってしまう。

自分が子供のころにしたかった習い事を我が子にさせている。

おわりに

本お便りを作っているときに気になるのは、どれくらいの保護者に「(心に)届いている、あるいは、響いている」のかな、ということです。配布しても、HPにアップしても保護者の皆様にお読みいただかなければ意味がないので、見出しや言い回しも心に引っ掛かる表現を意図的に使っています。また、家庭の中で本お便りを話題にしていただけたら幸いです。

さて、先日配信しました「コミュニケーションボード」の記事についてです。こちらの記事は、お話を伺った内容をもとに学校側で文章に再構成しなおしたものです。直接ご本人が書いた文章ではありませんので、誤解なさいませぬよう、よろしくお願いいたします。